別紙１

令和３年度藤井寺市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇談会　開催報告

（１）概要

議題	第２期藤井寺市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる令和2年度の内部評価・検証に対する外部評価
開催形式	書面開催
回答期間	令和3年8月26日～令和3年9月17日
出席者	加藤司委員、木下健司委員、中路新平委員、西村剛委員、三宅一弘委員 （懇談会委員5名全員回答）

（２）委員からの意見

①施策の内容別の内部評価に対する意見

＜基本目標1＞藤井寺市で結婚・出産・子育ての希望をかなえる

戦略プロジェクト２　子育て支援の推進	
保育サービス等の充実	定員の拡充、病後児保育開始など評価できる点も多いです。 けれども、藤井寺市を外環状線・大和高田線で区切った場合の北東・北西・南東・南西と分かれる地区のうち、南東部分については、第4保育所しか存在せず、また老朽化も進んでおり、常に言われていることではあるが改善が必要と考えます。

戦略プロジェクト３　地域に密着した教育の推進	
確かな学力の育成	教員の負担を軽減し、授業準備や子どもたちとの交流の時間を確保できるように、スクールサポートスタッフのより一層の活用や地域の社会人指導者の活用をこれまで以上に進めていただきたい。

＜基本目標2＞都市の魅力を創出・発信し、賑わいを高める

戦略プロジェクト１　百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産関連施策の推進	
世界文化遺産登録を契機としたプロモーション活動の推進	SNSによる積極的な発信などは評価されると思います。youtubeなどは視聴回数が期待した数値となっているのか疑問です。また費用・時間的に難しいかもしれませんが、定期的に解説や紹介の映像のアップが必要と思われます。また、古墳ミニドラマや藤井寺応援ソングを活用いただければ、切り口も変わるのではないかと期待します。
古市古墳群の保存・活用	トイレ等便益施設の整備について、NEXCO西日本の都合によるとはいえ、まったく進捗していないように見えます。

戦略プロジェクト２　シティプロモーションによる魅力発信	
シティプロモーション戦略の推進	藤井寺市に住んでいないため、ネットなどの情報発信によって、市の雰囲気を推し測るしかない。フジイデライクを見る限り、沿線に住む30代の女性にとって藤井寺市は住んだみたいと思わせるイメージが構築されている。アクセスも予想以上に伸びており、イメージチェンジに成功したと思われる。
	「観光難易度Ａ級シティフジイデラ」については、新しい発想によるものと評価したい。反面、藤井寺市に興味を抱く年齢層との乖離があるのではないかと感じました。

戦略プロジェクト３　まちなか観光の推進	
魅力ある観光コンテンツづくりの推進	コロナ下で打撃を受けた市内事業者への応援プロジェクトとして、市民を始めとする「さきめし」プロジェクトを立ち上げたことは、大いに評価されるべき。近鉄OBのサイン入りボールというアイデアも素晴らしいが、ネットに掲載されている四店舗のみが参加店舗だとすれば、寂しい。市民を巻き込んだプロジェクトにいかに事業に参加してもらうか、類似の事業を含めて工夫が必要と思われる。応援ソングまで実現したことは、頭が下がる。
「食」の魅力向上、特産品の開発・販売促進	事業者の販売促進を目的にリピーターの獲得を強化していく活動が重要と思われる。消費者の記憶に残りリピーターとなって貰う為には、スマートフォンの普及が進む社会でリモート広告・宣伝は1つの有効な手段となる。セミナー・相談会等の場を提供し、事業者のデジタルマーケティングへの理解をより深める事で、効果的な販売促進を行うことができるのではないか。
来訪者の利便性向上	シェアサイクル事業は、観光に大いに利用できるため実施できなかったことは残念。今後に期待する。 また、観光案内所については、コロナの影響により来館者数を正確に測れないが、観光の拠点となっているのか？、疑問です。 そこでしか買えないお土産や寄りたいと思える策が必要と考えます。
	Withコロナ・Afterコロナの中で、Wi-Fiやキャッシュレス等の整備の利便性向上を進めるため、商業者へのICT導入活用（PR活動やキャッシュレス対応等）への支援が必要と思われる。

戦略プロジェクト４　中心市街地における賑わいの創出	
駅を中心としたふれあいとにぎわいのあるまちづくり	イオンモールと連携したイベントの開催は、集客力などの点でも効果的。今後も、連携を踏まえたイベントなどを積極的に展開して欲しい。
駅周辺の拠点機能強化	道明寺駅周辺について、商店などの減少、空き地の増加が続く。また駅前ながら、マンション、住宅地の建設が進む・計画されるという商業や観光客誘致に逆風が吹いている。藤井寺駅周辺、土師ノ里駅周辺が整備される中、もっと早い対応が必要であったと思われます。

戦略プロジェクト５　地域産業の活性化	
商店街の活性化	新型コロナウイルス拡大における「新しい生活様式」の中で、衛生的な取引としてキャッシュレスが注目されている。セミナー・相談会等の場を提供し、事業者のキャッシュレスへの理解をより深める事で、「コロナ対策・消費者の利便性向上」の2点から商店街の活性化が期待出来るのではないか。

＜基本目標３＞藤井寺市で安心して元気にくらす

戦略プロジェクト２　安心していきいきと暮らせるまちづくり	
誰もが安心して暮らせるまちづくり	認知症高齢者で親族のいない方に対する経済事犯が今後も増加すると考えられる中、対象者を掘り起こすことは難しいと想像されるが、地域等と力を合わせ、被害に遭う方を少なくするためにも、成年後見の利用を進めていただきたい。
	銀行など高齢顧客との接点が多いという事業者で認知機能の低下した高齢者の対応が増加している一方、金融・非金融の垣根を越えた高齢者サービスの提供やリバースモーゲージ等の拡充が進んでいる。セミナー・相談会等の場を提供し、高齢者の理解をより深める事で、「利便性向上」「自助」の2点から改善が期待できるのではないか。

戦略プロジェクト３　多彩な人がつどい、活躍するまちづくり	
協働のまちづくりに向けた仕組みの構築	総合計画でも、市内の各種ボランティア団体に「横串し」をさすような体制の構築が強く主張されたと記憶しているが、取り組み内容を見るがぎり、そうした体制・仕組みの構築は取り組まれていないように見える。にもかかわらず、<A>評価ということは、「仕組み」の解釈が異なるのであろう。なぜ、そうした体制の必要性と実現可能性について、再検討して欲しい。

＜その他ご意見＞

シティプロモーションや観光コンテンツづくりにおいて顕著に見えるが、ICTを駆使し、市民を巻き込んだ取り組みは高く評されるべき。他の分野でも行われていると思うが、これまでのやり方にこだわらず、新しいことを他の都市にさきがけて行おうという気概というか、意欲が感じられて、今後藤井寺がどのように変化していくか、楽しみになっている。引き続きチャレンジして欲しい。
●保育サービス等の充実 ●子どもの居場所づくりの推進 ●企業の支援取り組み ●ワークライフバランスの普及啓発 ●介護予防の推進 ●健康づくり活動の推進 ●社会参加の促進 ●地域包括ケアシステムの構築 ●誰もが安心してくらせるまちづくり ●多様な地域活動の促進 ●支え合い、助け合うまちづくりの推進 柔軟で部門横断的な対策を、いかにして生み出すか？ 「地域コミュニティの脆弱化」という、私たちの社会が抱えてしまった問題。上記に列挙した項目は全て、根っこにこの同じ問題を抱えた、言うなれば「同類の要解決課題」のように感じます。 しかしながら、対応するそれぞれの事業には「高齢者」や「こども」、「ジェンダー平等なる価値感の盲信」など、概念の壁に囲まれた上で認識されているため、柔軟で横断的な対応策を繰り出すに至っていない印象を受けます。 例えば元気な高齢者のやさしさに育まれる子どもたちがいてもいい。 例えば未来を担う我が子を育てる行為こそが、どんなはたらきにも勝る、いきいきとした輝かしい仕事なんだという概念があってもいい。 ワークライフバランスというフレーズを是とする風潮も、ある種の思考停止へ導くバイアスがかかっていないか？ コロナ禍により、従来の社会通念が脆くも崩れる今だからこそ、わたしたちの街ふじいでらならではの感性を、再度刮目した上で再考すべきでは、と強く感じます。
コロナ渦という特別な環境下、藤井寺市の目指す「つどい、つながり　育つまち」のつどいに制限がかかる中、総合戦略に基づき、多くの施策を展開された事を評価いたします。しかし、「つどい、つながり　育つまち」というビジョンに向けた戦略が見えにくいです。例えば、基本目標2　都市の魅力を創出・発信し、にぎわいを高めるの各施策では、キーワードやコンテンツが山盛りで、まちづくりに携わる私でもどこを目指してるのか混乱します。取り組むべき行政課題は多々だと推察いたしますが、ビジョン達成に向けた戦略の共有を急いでいただきたいです。
例年と異なり、コロナの影響により、思い描く通りに進まなかったことも多かったことと思われ、そのご苦労に感謝申し上げます。 ただし、コロナを理由に「出来ない」と言うばかりではなく、ピンチをチャンスに変える方法もあると思われます。例えば世界遺産等については、外出できないことを逆手に取った映像コンテンツの充実をはかり、アフターコロナに向けた準備を進めるといったことに重点を置くことも考えられたかと思われます。 また、ここでは出ていませんが、ワクチンについては一般的な知識の普及・向上がなされたかと思われますので、コロナ以外のワクチン（例えば、子宮頸がんワクチン等）についても、併せて知識の提供、また接種率の向上に期待できる時期かと思われました。 とはいえ、百舌鳥古市古墳群におけるカーシェアリングの活用を進められていたり、デザインマンホール、教育環境の整備、キャリア教育の推進、いじめ対策なども進められておられます。一足飛びに施策が充実、進行しないのは仕方がないところです。それでも、暮らしやすい藤井寺、賑わいのある藤井寺を作っていっていただけるよう今後とも期待しております。